

令和 7 年 2 月 27 日

学校法人 城西医療学園

令和 7 年度 事業計画・予算の概要



OPEN MEDICAL
— 生きる力を。—



日本医療科学大学
NIHON INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCE

OPEN MEDICAL

— 生きる力を。 —



NIHON INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCE

日本医療科学大学

OPEN MEDICAL

— 生きる力を。 —

文系でも、理系でも、どのような科目が得意であろうと、不得意であろうと、大切なのは、誰かのチカラになりたい、困っている人を助けたいという心。持てる知識と技術を駆使して、人の命を支えたいと思う医療の心。そんな医療の心さえあれば、日本医療科学大学があなたに医療の道を拓きます。6 つもの医療系学科・専攻を擁するキャンパスに、さまざまな医療の心たちが集い、互いに協力しながら確かな倫理観や豊かな人間性をも育んでいく。社会に出た時に、必要不可欠な人材としての生きるチカラを育みます。明日の世界の医療は、もうあなたの前に広がっています。

目 次

(1) 学校法人城西医療学園の基本方針	P	1
---------------------	---	---

(2) 本学の三つのポリシー	P	2
----------------	---	---

(3) 令和7年度 事業計画（案）	P	5
-------------------	---	---

(4) 令和7年度 予算書（案）概要	P	16
--------------------	---	----

- ・資金収支予算（案）

- ・事業活動収支予算（案）

学校法人城西医療学園の基本方針

本学は「建学の精神」を具現化した多くの医療人を育て社会に送るとともに、大学開学に伴い、そうした医療人を育てるための教育者・研究者を養成することも目標の一つとしている。これを実現するための基本方針は以下の通りである。

- 長年培ってきた医療教育の蓄積をもとに、「高齢化」が深刻化する社会の要請に応え得る専門的な人材を養成するために、教育環境の充実を図る。
- 教育者・研究者の養成を実現するための長期的学園変革のプランニングを明示する。
- 専門分野に偏しない、社会人としての人格養成のための教育・支援を行う。
- 社会の多様性・流動性に対応するため、国際的、社会的視点を持った学園を構築する。
- 地域に開かれた大学となるために、地域住民のニーズを調査し、連携を図る。
- 施設・設備・図書の充実等、教員及び学生の研究環境向上のための支援を拡充する。
- 財務関係も含め、情報公開に努めて学園の透明性を高める。

建学の精神

報恩感謝

教育の基本理念

愛情・知性・行動

本学の三つのポリシー

“ アドミッションポリシー”（入学者受け入れ方針）

【学科独自項目】	
1	R 診療放射線科学に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
	PT リハビリテーションにおける理学療法に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
	OT リハビリテーションにおける作業療法に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
	N 看護に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
	ME 臨床工学に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
	CL 臨床検査に関する知識と技術に興味を持ち、社会に貢献する意思を持つもの。
【学部共通項目】	
2	医療人を目指すうえで必要となるコミュニケーション能力を持つもの。
3	物事を理解し、説明できる力を持つもの。
4	医療分野に応用するための素養や基礎的学力を持つもの。

表中の記号

R ; 診療放射線学科

PT ; リハビリテーション学科 理学療法学専攻

OT ; リハビリテーション学科 作業療法学専攻

N ; 看護学科

ME ; 臨床工学科

CL ; 臨床検査学科

“カリキュラムポリシー”（教育課程の編成方針）

【学部共通項目】

1	生命の尊厳を自覚し、相互に助け合い、思いやりの精神をもち、社会背景や価値観の異なる人々を受容できる能力を習得するために学科共通の科目を配置し、基礎教養科目から専門基礎科目への段階的な科目構成とする。
2	学生が主体的、自律的に成長し発展する能力を促すための科目構成を行う。医療の発展・高度化に対応するため順次性や階層性を持たせた基礎科目から専門科目への段階的な科目構成とする。

【学科独自項目】

3	R	放射線科学技術及び理工学的基礎知識と技術をもって社会に対して貢献できる能力を習得するための科目構成とする。
	PT	理学療法学における人体の構造と機能、疾病と障害および保健医療福祉に関する知識と技術をもって社会に対し、実践を通して貢献できる能力を習得するための科目構成とする。
	OT	作業療法学における人体の構造と機能、疾病と障害および保健医療福祉に関する知識と技術をもって社会に対し、実践を通して貢献できる能力を習得するための科目構成とする。
	N	看護学の各領域における多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践できる能力を習得するための科目構成とする。
	ME	臨床工学の各領域における多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践できる能力を習得するための科目構成とする。
	CL	臨床検査医学・在宅医療等の多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践する能力を習得するための科目構成とする。
4	R	画像診断、核医学、放射線治療等の放射線医療の専門分野において、系統的に専門知識及び技術を実践できる能力を習得するための科目構成とする。
	PT	リハビリテーションの医学において理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学等の理学療法に関する専門知識及び技術を系統的に実践できる能力を習得するための科目構成とする。
	OT	リハビリテーションの医学において作業療法評価学、作業療法治療学、地域作業療法学等の作業療法に関する専門知識及び技術を系統的に実践できる能力を習得するための科目構成とする。
	N	人の誕生から各成長発達段階における人々の健康課題と、地域社会で生活するさまざまな人々に対する健康支援と安全・安楽を守り、看護を提供できる能力および国際的な視点や研究姿勢をもって将来的に向上していく基盤を習得するための科目構成とする。
	ME	臨床で使用する生体計測機器・治療機器や生命維持管理装置等の原理・構造を理解し、保守管理に関する実践的知識・技術を習得するための科目構成とする。その際には、基本的な理解を目的とする基礎科目から専門科目への展開につなげる科目構成とする。
	CL	画像検査と検査測定機器の維持管理に対する知識と、医療に対応できる実践能力を習得するための科目構成とする。その際には、基本的な理解を目的とする基礎科目から専門科目への展開につなげる科目構成とする。

【学部共通項目】

5	保健・医療・福祉の各分野の特性を理解するための科目構成とする。さらに、チーム医療の一員として責務を遂行できる能力を習得するための科目構成とする。
6	専門職として、現代社会において果たし得る役割や機能を認識し、貢献できる能力を習得するための科目構成とする。

“ディプロマポリシー”（卒業認定・学位授与に関する方針）

【学部共通項目】	
1	生命の尊厳を自覚し、社会背景や価値観の異なる人々を受容する姿勢や態度を身につけている。
2	主体的、自律的に成長し発展する能力を身につけている。さらに、医療の発展・高度化に応じ、専門職として継続的な自己研鑽に励み、領域の発展に寄与できる能力を身につけている。

【学科独自項目】	
3	R 放射線科学技術及び理工学的基礎知識と技術をもって社会に対して貢献できる能力を身につけている。 PT 理学療法学における人体の構造と機能、疾病と障害および保健医療福祉に関する知識と技術をもって社会に対し、実践を通して貢献できる能力を身につけている。 OT 作業療法学における人体の構造と機能、疾病と障害および保健医療福祉に関する知識と技術をもって社会に対し、実践を通して貢献できる能力を身につけている。 N 看護学の各領域における多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践できる能力を身につけている。 ME 臨床工学の各領域における多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践できる能力を身につけている。 CL 臨床検査医学・在宅医療等の多様な医療現場において、個人・家族・地域社会に対し、系統的に専門領域を実践できる能力を身につけている。
4	R 画像診断、核医学、放射線治療等の放射線医療の専門分野において十分な知識と技術を有し、系統的に専門知識及び技術を実践できる能力を身につけている。 PT リハビリテーション医学において理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学等の理学療法に関する専門知識及び技術を系統的に実践できる能力を身につけている。 OT リハビリテーションの医学において作業療法評価学、作業療法治療学、地域作業療法学等の作業療法に関する専門知識及び技術を系統的に実践できる能力を身につけている。 N 人の誕生から各成長発達段階における人々の健康課題と、地域社会で生活するさまざまな人々に対する健康支援と安全・安楽を守り、看護を提供できる能力および国際的な視点や研究姿勢をもって将来的に向上していく基盤を身につけている。 ME 臨床で使用する生体計測機器・治療機器や生命維持管理装置等の原理・構造を理解し、保守管理に関する実践的知識・技術を身につけている。 CL 画像検査と検査測定機器の維持管理に関する能力を有し、医療に対応できる実践能力を身につけている。

【学部共通項目】	
5	保健・医療・福祉の各分野の特性を理解し、医療チームの一員としての役割を自覚し責務を遂行できる能力を身につけている。
6	専門職として、現代社会において果たし得る役割や機能を認識し、貢献できる範囲と程度を理解できる能力を身につけている。

令和7年度 事業計画

令和7年の我が国の経済は緩やかに持ち直している。三菱総研によると先行きは、内需を中心に底堅い成長が続くと予測しており、令和7年の春闘に向け労使ともに高めの賃上げが必要と認識しており、物価影響を考慮した実質賃金は平均すると前年比プラスで推移し個人消費は実質賃金の回復、家計の節約志向緩和から、緩やかに持ち直すとしている。

一方、世界経済については、一般的に世界経済成長率は3%を景気の後退と拡大の境とするため、昨年の世界経済は景気後退の手前で底入れ、すなわちソフトランディングに成功し、令和7年は拡大局面に転じるものの、米国経済の減速や中国経済のもたつきから、緩やかな景気回復にとどまるとされている（伊藤忠総研）。

そのような状況において日本の大学は、18歳人口の減少が続くなかで大学数と入学定員の総数が増大し、学生の確保が困難となり定員割れが拡大、自立的な運営が困難となっている大学や短期大学が少なくない。少子化は今後もさらに進行することが予測され、大学全体の規模の縮小や個々の大学の連携と再編等が今日的なテーマとなっている。

日本の私立大学は学生数の少ない中小規模校が非常に多い。私学事業団によると、在籍学生数が3千人未満の大学は612校中420校で3分の2以上の割合を占めている。規模のメリットを発揮できず、財政基盤が脆弱のところが多く学生数等の減少が財政悪化に直結する大学や法人が増加している。リクルート総研は、自校の弱みを補って強みを伸ばすとともに、連携校の人的・物的資源を活用できることが好ましいと言う。例えば単位互換を拡大すれば自大学の負担は軽減される。一昨年の大学設置基準の改正による基幹教員制度では大学の必要最低教員数の4分の1までは他の大学・学部の教員を算入することが可能となり、活用すれば慢性的な教員不足に対し大きなメリットとなると言う。

いよいよ本年4月から、改正私立学校法が施行され、ステークホルダーの信頼を得て教育研究を持続的に遂行するためのガバナンス強化が大学に求められることになる。学生確保のための積極的な募集活動や戦略的な広報活動の実施は言うまでもなく、本学に集う学生の為に有効なカリキュラムマネジメントによる教育改革など、課題は山積している。加えて学修成果をどのように把握し、高めていくかについても個々の教員の努力を超えた組織的な対応が必要となる。組織として持続的な教育と学生指導を可能とする新たな施策で大学教育を向上させていくことが求められる。

これらの観点から、本学のあるべき姿と果たすべき役割を改めて構想する。存在意義を見だし、持続可能性を高めていかなければならない。令和4年に練り上げた中期計画の中間総括を行いこれに基づき残り2年の計画を遂行し大学の持続可能性を高めていくことこそが肝要である。自然災害、景気低迷と少子化問題という大きなうねりのなかではあるが、しっかりと本学の体制を整え、将来を見据え集大成するため様々な戦略を実行していく。

1. 学生満足度向上に向けた取り組み

18歳人口の減少による、大学の定員割れが深刻化していく中で、本学で学ぶ学生の満足度を向上させることは非常に重要である。本学においては「医療人を育てる」という重要な使命があり、そのためそれぞれの学科・専攻の国家資格の取得はもちろん、現代社会のニーズに即した最新の知識や、技術を伝え、実践的な授業展開を目指す。また学生同士、学生と教職員のつながりをさらに強化するとともに、快適な学習環境を整える事と包括的な学生支援を行い、日々の学生生活の充実を図るために以下の項目に取り組みたい。

(1) 国家試験合格のための対策

令和5年度の卒業生の国家試験合格率については、理学療法学専攻で100%合格を達成することができた。その他の学科・専攻においても8割以上の合格率を残すことができた。これは学生自身のたゆまぬ努力と教員の細やかで手厚い指導の支えによるものである。令和6年度も全員国家試験合格を目指し、父母後援会から国家試験対策費の資金援助を受けつつ、国家試験に対して万全の支援体制を整え、模擬試験の実施や、特別対策などの取り組みを行っていく。

(2) 就職支援の充実

それぞれの学科・専攻により就職活動の時期が異なることから、令和7年度の求人説明会は開催場所を本学にて最も適した活動時期に各学科・専攻ごとに開催する。各学科・専攻におよそ30施設の参加を見込み、学生、病院・施設側にとっても実のあるイベントになるよう行う。また、就職活動を行う学生に質の高い就職支援と学生の就職への意識浸透及び施設への興味醸成、並びに就職予定先の早期確保と全員就職内定を狙う。

(3) 学生支援の継続

令和7年度は学生の出身地別に職員を割り振り、イベントや、支援を行い、学生同士の交流を深めると共に、学生生活を充実させ、退学率の減少につなげたい。また、協定校出身の学生に対しても同様に担当職員を割り振り、交流を活性化させたい。例年好評を得ている大樹祭（学園祭）においても学生の声を吸い上げ、より学生に魅力的なステージパフォーマンスやタレントによるライブ、青島健太客員教授によるトークショーなどを実施する。そのほか、サークルの新歓イベントやNIMSスポーツ大会では、学生の希望の多いスポーツ大会とeスポーツの大会の開催を予定している。その他ハロウィンパーティー、クリスマスパーティーなどの例年恒例イベントも積極的に行い学生の満足度向上に努める。

(4) 施設・設備の拡充及び補修

令和7年度は学修成果の可視化を進め、学生が自身の学修の進捗や到達度を計り、効果的に学修を進めることができるようシステムの面でも整備を強化する。また、あ

らたな教学システムの検討を進めるほか、施設・設備の拡充と補修について計画的に進めている。NIMSブランディングプロジェクトの一環として「もっと NIMS が好きになる！プロジェクト」も実行し、大学のキャンパスに相応しい装いを施し、学生満足度の向上や、ステークホルダーに対する好感度アップにつなげ、今後も教育環境充実のため教育研究備品等についても計画的に整備していきたい。

○教育研究備品の購入

1) ユニバーサルスケーラ（診療放射線学科）	・・・	予算	2,404 千円
2) 心肺運動負荷モニタリングシステム（理学療法学専攻）	・・・	予算	6,500 千円
3) 重度障害者用意思伝達装置（作業療法学専攻）	・・・	予算	481 千円
4) 新生児蘇生モデル（看護学科）	・・・	予算	396 千円
5) 医療ガス実習用カート（臨床工学科）	・・・	予算	1,430 千円
6) 味覚検査装置（臨床検査学科）	・・・	予算	784 千円
7) 任意波形発生装置（医療・基礎教育科）	・・・	予算	1,595 千円

診療放射線学科

【ユニバーサルスケーラ】

放射線取扱施設における放射能測定や
放射線管理のためのユニバーサルスケーラ



リハビリテーション学科

理学療法学専攻

【心肺運動負荷モニタリングシステム】

心肺運動負荷試験中の呼気ガスの分析装置



リハビリテーション学科

作業療法学専攻

【重度障害者用意思伝達装置 TC スキャン】

最新の重度障害者用意思伝達装置
身体状況に合わせてスイッチから視線入力まで多
種多様な危機に対応する



看護学科

【新生児蘇生モデル】

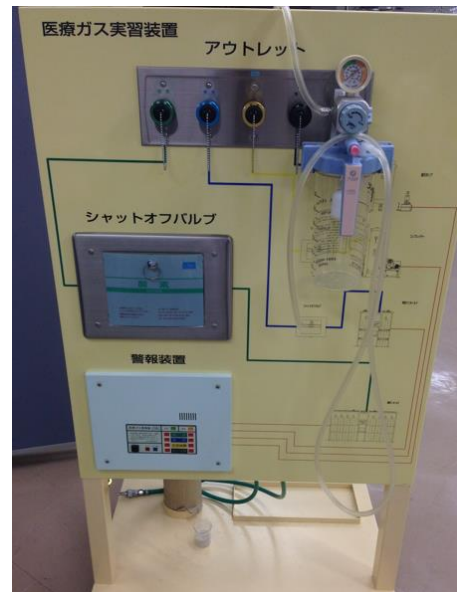
新生児への心肺蘇生法の訓練モデル
器具を用いた人工呼吸や胸骨圧迫といった手技が演習可能



臨床工学科

【医療ガス実習用カート】

酸素や空気を供給する医療ガス供給システム



臨床検査学科

【味覚検査装置】

様々な種類の味覚を数値化



医療・基礎教育科

【任意波形発生装置】

任意の波形信号を作成・発生する測定器



2. 学生募集の強化

文部科学省が公表した令和6年度学校基本調査において大学進学率は過去最高の59.1%に達し過去最高を更新した。しかし、18歳人口は109万7,416人から106万人3,451人と約3万4,000人減少しており、このなかで大学進学者数が63万2,902人から62万8,766人と減少している。本学の強みを活かした徹底した募集活動を行わなければ、学生確保はさらに厳しい状況となる。「選ばれる大学」にならなければ生き残る道はない。

高校生のニーズは進路選択の早期化と安全志向が強まる傾向にあるほか、学びの内容や大学の特色を重視する傾向があり、オープンキャンパスや大学説明会などに積極的に参加する高校生も増えている。インターネットやSNSを活用した情報収集も主流であり、そのような学生募集のトレンドやニーズをとらえ、データを分析しながら効果的に学生募集につなげていくため以下の活動を推進していく。

(1) 強力な学生募集活動の推進

①入試状況の把握

他大学でも従来の入試に加え多様な入試方法を工夫して意欲ある入学生を確保しようと努力している。全体的には、一般入試の比重が低下し推薦入学が重視される傾向が強い。本学においてもそのような状況に対応した形で入試方法を行っていくことが重要である。学生確保において、高校までの期間に学校行事や部活動、学外活動など人間としての素養を高めた高校生を評価する仕組みが必要となる。総合型選抜のような入試では本学の「アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）の共有」を評価し、授業の内外で自ら問題意識を掘り下げて探求するような人材を発掘する必要がある。早めの入試で安全志向の高校生に対して、取りこぼしのないようにアプローチする事と一般入試で合格を目指す高校生の状況を把握しながら、それぞれにアプローチし、受験生の確保に努めていく。

②高校訪問の継続

インターネットやSNSが発達した現在においても、高校の先生からの影響もいまだ大きい（リクルート調べ）。第一志望校は比較的明確に決定しているものの、併願校を決めることに苦渋する高校生が増えている。そのような中で身近な高校の先生は高校生への影響力も大きい。高校訪問の際、高校の先生に対して接触回数を増やし関係性を築いていくことが大切である。令和7年度は、高校訪問に特化したチームを作り、戦略的に高校訪問を展開し、地元近郊を重点的につないでいき、募集につなげたい。

③情報ソースの使い分け

高校生はSNS等に移行しているが、中でも動画による情報収集をする高校生が多い。令和7年度は情報が古くなっている動画を更新するとともに、本学の魅力を動画によるアピールを行い、今のSNSの流れに乗った形で分かりやすく高校生にアプローチを行う。

④オープンキャンパス

実際に大学を知るために感性的価値ではオープンキャンパスが一番高く、情報としての信頼度や、新しいことの発見ということでは興味を高くもっている。令和 7 年度はその中でも体験に特化した内容を展開し、本学ならではの魅力を高校生に伝えていく。また土日開催を行い、これまで参加できなかった高校生を取りこぼさないよう機会を設け、教職員や在学生との距離の近さやアットホームな雰囲気を体感してもらえるよう、さらに磨きをかけて取り組みたい。

3. 教育改革予算（学長特別研究費）

大学改革実行プラン（文部科学省）に基づき、本学は通常の予算申請とは別に、教員の研究業績の一助として学長が特別に認める研究費（学長特別研究費）として、教員もしくは学科が本学の教育改革を遂行するための予算として位置付けている。令和 6 年度は、5 件が採択され、継続研究 8 件と併せて 13 件の研究実績を残した。令和 7 年度の募集について、研究・倫理委員会が中心となり 3 件の応募があり、委員会審議中である。

4. 研究部門の充実

本学における令和 7 年度「科学研究費（科研費）」の募集に対する応募は 8 件（教授 2 件、准教授 2 件、助教 3 件、職員 1 件）であった。今後も申請を推進していく。

また、研究紀要については、学生指導と教育はもちろんのこと、教員自身の業績を高め、教育へとフィードバックするためにも欠かすことができない。研究に対する質・量の充実を図りながら、研究・倫理委員会が所管する学長特別研究費と同様に、研究紀要は図書委員会が中心となり第 17 号が発行された。

5. 国際化への対応

令和 7 年度はサマープログラム（アメリカ研修）の実施と、その他学生向け渡航プログラムと学内イベントを開催していく。



令和7年度国際交流研究センター計画

実施予定時期	内容
8月18日～29日（未定）	サマープログラム（アメリカ研修）
時期未定（前期・後期）	English Lessons
時期未定	協定校との交流 ・台湾 中台科技大学 ・ベトナム ドンナイ技術大学 ・フィリピン アドベンティスト大学 マニラアドベンティスト大学
年3回程度	（共催）NPO 法人 J.J.N Social Contribution 小学生対象英語イベント“Empowering English Camp”
時期未定	国際交流デー スペシャルイベント



6. 地域・社会貢献

本学では例年、大学の社会貢献についての定めや教育基本法第7条に基づき、本学の地域・社会活動センターを軸に学生主体のボランティアと地域との交流、大樹祭の一般公開等着実に外部への発信などの活動を行っている。加えて、公開講座についても、社会貢献の観点から医療系のテーマを中心に考案し、活動を継続してきた。地域の児童・生徒に向けて子ども大学や実験・医療職体験を行うことで教育支援活動も展開してゆく。その他、いわき市が主催する「寄附講座」にも参画し、好評を得ており、地域や社会に対して大学としての責務を果たすべく次年度につなげていきたい。

7. 財務

本学は、開学以来すべて自己資金で大学に必要な財政基盤を賄っており、残念ながら入学者は減少傾向であるものの収入計画は順調である。

学校法人の会計は、教育研究上の要求と財政上の諸条件との持続的な調和を図り、学校法人の永続的な維持を可能にするための計測の指針を提供するものであり、同時に、学校法人の諸活動の合理的な決定とその実行結果についての判断に資する資料を提供する観点から、的確に処理されなければならないものである。(文部科学省)。

大学経営の危機の時代において、日本の大学は淘汰、再編は不可避であるといえ、収支のバランスの改善、学生募集、教育力、研究力を高めることが求められる。学園としては今後10年を見据えた経営を行うべく、教育の質と学生満足度の向上のため、ソフト面のみならずハード面においても必要なものを検証していきたい。しかしながら収益基盤を確固たるものとするために、「実のある設備投資」と「無駄な経費の削減の継続」の両側面から有効な財務管理を徹底していく。

8. 日本医療科学大学のあるべき姿の実現（中期計画）に向けて

本学園は50有余年の歴史を有する城西放射線技術専門学校を基軸に2007年に日本医療科学大学として名実ともに医療人養成に特化した大学としてスタートし数多くの医療人を世に輩出してきた。しかし冒頭記載した通り18歳人口の減少、不安定な世界情勢、国内での物価高騰など様々な状況に直面している。

今後も、この不安定な状況が続くと予想される中、生き残りをかけ発展していくために、令和4年度から向こう5年間の指針と行動計画を策定した。令和7年度はその中間ともいえる時期となり、これまでの内容をしっかりと確認し、修正を加えながら、各年度の事業計画や予算編成に連動させ、効果的に学園の発展を実現していく。具体的には以下の内容に取り組む。

(1) 城西医療学園の長期ビジョン（10年後のあるべき姿）

1. 医療業界に深く貢献できる自立人材育成の教育体制の整備
 - ①明確な人材養成目的ならびに目指す学習成果の形成。
 - ②教育課程の体系的な編成と適切な実行による教育の質の向上。
 - ③教育内容や教育方法の充実・改善のための組織的な取り組み。
 - ④点検・評価の適切実行と結果から改善方策の創造と確実な実行。
2. 医療業界に深く貢献できる自立人材育成の教育拠点の整備
 - ①学生の学修成果の達成と国家試験合格のための支援実行。
 - ②学生が健全な学園生活を実現するために充実した生活支援実行。
 - ③学園の施設設備を適切に整備し、学生の学習環境の維持改善。
3. トップクラスの教育維持のための財政基盤の確保と収支均衡の継続
 - ①収入確保と予算編成・執行を通じた適正な支出と教育に有効な還元。
 - ②教育に必要な基本財産の永続維持のための財政構造確立。
 - ③学園出資会社の有効活用。
4. ステークホルダーとのコミュニケーションの充実推進
 - ①適切な情報の積極開示と教育活動の充実。
 - ②教育成果の地域社会への積極的な還元と貢献。
 - ③地域社会の課題や要請への積極的な対応。
5. 組織内部のコミュニケーションの推進と人材育成
 - ①人材育成体制の確立。
 - ②コミュニケーション醸成のための縦横無尽な組織への変革。

(2) 全学的に取り組む中期的な課題と計画

1. 定着させるべき“あるべき姿”
 - ①医療業界をリードする見識溢れるトップクラスの医療人を育てる教育研究の実現。
 - ②国際感覚豊かで将来にわたり常に頼られる医療人育成の拠点。
2. 中期的な計画実行のためのテーマとプラン
 - ①「建学の精神」を踏まえ、ビジョン（将来構想）に向けた「テーマ」を設定。
 - ②テーマ実現に向け、取り組み項目「マスタープラン」の設定。
 - ③マスタープラン具体化のための「アクションプラン」と「ロードマップ」策定。

(3) テーマ実現のための具体的マスタープラン内容

テーマ（あるべき姿）を実現するためにマスタープランを設定し、法人の役割と大学の役割を明確にして以下の項目に取り組む。

学園（法人）が取り組む項目

I 経営と教育基盤の確立のための体制整備

大学が取り組む項目

II 教育改革 、 III 学生募集と学生支援 、 IV 教学マネジメント 、
V 社会連携・社会貢献 、 VI 国際交流